

24日 長浜市議会

全会一致で「統廃合計画の中止を求める」意見書採択

全会派が「湖北の高校をまもる」立場へ

21日、長浜の市会議員から高教組に連絡が入りました。「今日、長浜市議会の総務文教常任委員会が、全会一致で意見書を採択した。24日の本会議でも通るはず」と。6月議会で、請願採択に向けて奔走した保守系の議員です。同議員は、6月議会での「請願趣旨了承」の決定に悔しい思い。24日の本会議が終わるや否や、また電話が入りました。「30人、全会一致で取りました」。知事と教育長宛の「統廃合計画の中止を求める」意見書が全会一致で採択されたのです。議員はとても嬉しそうです。思わず「よかったですね。これで、長浜市全体の空気が変わりますね」。「そうです。ありがとうございます」。地域とつながったとき、相手もこちらも、両方が嬉しくなります。以下、長浜市議会が採択したの意見書の概略です。



地域が活気を失う 統廃合計画は中止を 議会や住民の意見を聞いてから方向を



長浜市の県立高校統廃合に関する意見書

...長浜市の住民は、とても不安を感じています。...1学年5学級以下の高校が統廃合の対象...私たちが属する旧湖北学区では、8つの高校のうち、伊吹、長浜農業、長浜北、長浜、長浜北星、虎姫、伊香の、実に7校が対象になります。現在、湖北の高校は1学年5学級程度ですが、これを1学年7学級程度に規模を大きくすると、8年後には、3つの高校がなくなる計算になります。

湖北は、もともと広い地域で北部や西部にも学校が配置され、地域の人たちはその学校を大事にし、多くの子どもたちが地域の学校

に通っています。長浜市には6つの高校があります。そのうちの2～3校がなくなるとすれば、地域の子どもたちにとっても長浜市にとっても大きな損失です。

地域の学校がなくなれば、地域は活気を失い、経済も含めて地域がさびれていきます。近くの学校がなくなれば、子どもたちは遠くの学校に通わなくてはならず、通学にかかる時間や費用が重なります。また、通う学校の規模が大きくなれば、学校の先生と子ども、子ども同士の関わりが薄くなり、教育効果が下がると考えられます。8月8日に米原市で開かれた「県民の意見を聞く会」では、地域の小規模校の良さがこもごも語られました。

県の財政は厳しいと考えますが、子ども一人当たりを使う県のお金は、全国でも最下位クラスだと指摘されています。また、統廃合の理由として子どもの減少が挙げられていますが、20年前のマンモス校時代と比べれば、子どもが減った今の方が、学校は適正な規模であり、教育環境は良好だと言えます。

...今回のような大幅な統廃合計画は中止すべきだと考えます。少なくとも、今年度中に統廃合計画を決定する方針を改めて、私たち地方議会や地域住民の意見を聞き、それを踏まえた上で今後の方向を決めるべきだと考えます。

2010年 9月 24日

滋賀県知事 賀県教育委員会教育長 宛

長浜市議会議長

この日は、米原市、日野町でも全会一致で意見書が採択され、全部で11議会になりました。

高校統廃合はストップせよ
速報 第16号 2010/09/27 発行：滋賀高教組

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)